

月報

44号 所

発

青丘文庫

編集・発行★韓 哲 曦

行 〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1

メゾンド青丘ビル2階

TEL (078) 734-5989

パソコン通信「アリラン」

堀内 稔

先日、知人からPCIVANに「アリラン」というSIGがあると聞き、さっそくアクセスしてみた。PCIVANとは、日本電気が経営する国内最大のパソコン通信のネットワーク。SIGとは、スペシャル・インタレスト・グループの略で、要するに特別な関心を持つ者どうしの集まり。PCIVANには百数十のSIGがある。

SIGアリのランの位置づけは、「韓国・朝鮮と日本の歴史をとらえ直し、現在を見つめ、未来を考える」とある。SIGの中には電子メール、フォーラム、ライブラリーなどのコーナーがあり、とくにマダン（広場）と名付けられたフォーラムには活発にメッセージが寄せられている。開始はことしの一月末から。現在までの三カ月ほどの間に、四六〇件を超える書き込みが行われている。

書き込みの内容は、「お隣の国、韓国・朝鮮について、また、在日韓国・朝鮮人問題について、感じていること、考えていること、疑問に思っていること」、また「焼肉のおいしい店があるよ、この映画おもしろいよ、といった情報もお待ちしています」というSIGの責任者（SIGオペという）の要望に沿ったもので、在日朝鮮人の結婚問

題、指紋押捺問題、「在日」という言葉についてなどでまじめな論議が行われているほか、韓国旅行を安くあげる方法とか、集会や催し案内など現実的メリットを持つな情報も多い。このSIGのライブラリーにあるハンゲル表示／印刷ソフトを手に入れば、ハンゲル表記でメッセージをやりとりすることも可能である。

SIGの推進者は、韓国留学の経験もある大学院生のハヌル氏（パソコン通信ではニックネームで呼び合うのが普通）ほか、数人の韓国・朝鮮大好き人間。ボードへの書き込み参加者の中には在日朝鮮人も多い。

私たちはこれまで、書籍、雑誌などのメディアを通じて意思表示なり、意見の交換を行ってきた。しかし、これらのメディアでは参加できる人がどうしても限られ、また意思表示においても時間のズレが生じる。これに対してパソコン通信は、パソコンかワープロを持っていないければならないという条件はあるが、いったんネットワークさえつくってしまえば、全国の仲間とリアルタイムに近い形で情報交換できる。

PCIVANのアリランは、まさにそれを実現したものと言える。わが青丘文庫の研究会も、パソコン通信の可能性を検討しなければならぬ時期にきているのではないだろうか。

在日朝鮮人運動史研究会第二一回例会

(一九九九年十月十四日)

日本の異民族受容度ー異民族政策と在日朝鮮人の帰化問題
報告者 伊地知紀子

真の国際化には内なる土壌が必要である。

そこで、日本と歴史的につながりの深い国内最大異民族在日朝鮮人に焦点をあて、その帰化問題を通して日本の異民族受容に関する一研究を行つた。

本論では、視点を三つ設けた。第一点は政府の「帰化」への視座である。最近、対外的には「国際化」路線を歩んでいくもののようであるが、内では依然単一民族国家の枠組を維持すべく同化主義をとっている。そして、それは「帰化」行政において具象化される。その最たるものは、申請時の「日本名への変更指導」である。民族性抹殺を指向する「帰化」は在日朝鮮人同化政策において重要な位置を占めてきた。

第二点では、このような「帰化」に対する在

日朝鮮人の視座をとりあげた。ここでも問題として浮び上ってくるのは、「帰化」を全人格的行爲とみなし、「帰化者」を区別することによって「異化」することである。これは在日朝鮮人社会の意識の分断を促し、「帰化」を問題として顕在化しにくくしてしまう。しかし、このことも時代の流れとともに対応に変化はみられる。つまり、「帰化」と「裏切り」とみるよりも、在日朝鮮人の問題としてとらえるようになつてきたということだ。

第三点は「帰化者」自身の視座である。ここでは、親が民族性を保持し「帰化」しても、その子が日本社会に埋没し易い点を指摘しておきたり。注目したのは、最近の動きとして、「帰化者」自身による行政への問題提起と運動である。「民族名」とりもどす会によるこのような運動は、従来の日本政府の態度、そして在日朝鮮人の意識に一石を投じるものであろう。

今後、諸々の変化の発展性と可能性につけて考察していきたい。

朝鮮民族運動史研究会(八回)例会報告

一九八九年三月二日

朝鮮民族戦線連盟について

鹿嶋 節子

朝鮮民族戦線連盟は、一九三七年十一月十二日、中国国内で活動する左派朝鮮人の連合戦線として南京で成立した。加盟団体は、朝鮮民族革命党、朝鮮革命者連盟、朝鮮民族解放運動者同盟の三つであつたが、各団体は以前から人的なつながりを持っていた。これらの団体は三え年夏頃より戦線統一の論議をはじめ、日中戦争の勃発と中国の国共合作の動きに融発され、また右派、金九らによる、韓国光復運動団体連合会と左派に對抗すること、李青天らの脱隊後の民族革命党周囲勢力の立て直しをはかる必要があつたこと等を直接の契機として、この連合戦線形成の運びとなつてゐる。

組織は各団体より代表を出して理事会を構成して運営、民族統一戦線の促進、中朝民族連合戦線の建立、中国抗日戦への参加を工作方針として活動し、機関誌「朝鮮民族戦線」を発行し

て、その主張を内外に宣伝した。

一九三七、八年の二期間は、中国の抗日戦勝利が朝鮮の解放につながるとの認識の下に戦線の統一と、身体的な抗日戦への参加が強く求められ、民族戦線連盟の下で、一九三八年には朝鮮義勇隊がつくられ、また、金九らと合作し進められ、一九三九年八月には全国連合陣線協会が発足、民族戦線連盟は、その中から派に属する人々が離れていく中、党内朝鮮独立運動者の一応の大同団結の組織が形成されることによつてその活動を冷えることとなった。

つた二年ほどは期間しか存在しなかつた国作ではあるが、民族統一戦線形成の試みとしてあるいは朝鮮義勇隊の土台として、その存在と活動はきつんとおさえておかねばならぬ。また、中国における朝鮮人独立運動を論議する場合、中国共産党と中国国民党が、それぞれの運動をどうとらえ、人々をどう処置しようとしていたかが云々されることになるが、それだけではなく今後は中国の所謂第三勢力の動きもつかひと視野に入れていく必要があるのではまいかという指摘がなされた。

☆新着図書

- 食は韓国にあり 森枝卓士 東京 弘文堂 88年P214
- 아시아 문화 제4호 翰林大学아시아文化研究所 A9同所88年P296
- 역사 비평 계보론 역사문제연구소 88年 P413
- 朝鮮総督府官報 (111 ~142) 韓国文献研究所 ソウル亜細亜文化社87年 9月P832
- 司法寮報 (1~5) 韓国社会史資料叢書 " " 88年 5月
- 溪同全書 (上・中・下) 溪同先生刊行委員会 " " 84年 9月
- 韓国財務経過報告 (1~5) 韓国学文献研究所 " " 88年 7月
- 韓国財政概況臨時財政整理局事務要綱 " " " 88年 7月
- 韓国財政整理報告 1・2・3 " " " 88年 7月
- 韓国貨幣整理報告書 (18~30) 李 融和 " " 88年 9月
- 葛庵全集上 裴宗鎬 " " 86年 4月P562
- " 下 李 玄逸 " " " P477
- 朝鮮開争関係資料集 1・2・3 李 融和 " " 88年 9月

☆研究会御案内

・在日朝鮮人運動史研究会 第111回例会

日 時 1989年5月14日 (日) 午後2時

テーマ 日本の異民族受容度—異民族政策と在日朝鮮人の帰化問題

報告者 伊知地 紀子 氏

・朝鮮民族運動史研究会 第83回例会

日 時 1989年5月21日 (日) 午後1時~3時

テーマ 朝鮮における治安維持法体制

報告者 水野 直樹氏

※ 研究会後、ニュー・ユニオン(三宮)122

飯沼二郎先生、日希討論会、出版委員会。